

寶相華

巻頭四方山話

会長 瀬川 雅 数
(昭43年卒)



令和時代の幕開けは多くの国民の祝福で始まった。

祝福の雰囲気を出したのは新天皇の即位が二百年ぶりの譲位によるものであった。さらに、新元号の出版が日本の古典「万葉集」であったことがお祝いムードを盛り上げた。そして、大きな被害をもたらした自然災害の記憶が残る過ぎし平成時代から美

しい良い時代を意味する「令和」に向けての期待が後押しした。期待に込めるように令和最初の吉報をもたらしたのが百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録ではないだろうか。

多くの古代遺跡が近代の都市化により破壊されたが、世界最大級の墳墓とされる仁徳天皇陵をはじめとする多くの巨大古墳が大阪堺・河内地方や奈良に残ったのは天皇制度を持つ日本文化であろう。

「仁徳天皇陵、堺市大仙町七番地というのがその所在地であった。周囲には履中天皇陵をはじめ沢山の大型古墳が

宝相華会 (同窓会) 会報 No. 80

発行者 瀬川 雅 数
編集者 藤原 正義
発行所 県立奈良高校同窓会
印刷所 共同精版印刷(株)

題字「寶相華」は平明時代の国宝「細字金光明最勝王經」より。(筒井寛秀((中11回)収録)

点在して、いわゆる百舌鳥古墳群と言われる古代遺跡群を形成しているらしい。」五木寛之の小説「風の王国」の一節である。小説は人間の相互扶助と自然共存を信念として共同体社会を作る「天武仁神講」の話として展開する。戦後の経済発展による自然破壊と明治から受け継がれた「天武仁神講」の精神との背反を浮かび上がらせる。現在にも通じる課題を考えさせる小説である。

グローバルな企業間の競争社会が経済発展の原則に従ってがむしゃらに走って行く。その結果、自然破壊が進む中で、逆に私達の生活は豊かになっていく。生活が豊かになるにつれて個人主義が強調されて、共同体社会を作る相互扶助は薄れていった。その一方で世界規模の異常気象が一

瞬で我々の生活を破壊する。破壊された社会の中で私たちは相互扶助の重要性に気付かされる。しかし、犠牲を目的にしたりしても、自然を制圧するように走り続ける今の文明社会である。

新元号「令和」の出版である万葉集の時代や古墳時代の人々は相互扶助が必要であり、自然との共存をしなければ生きていけなかったであろう。相互扶助の社会を築くために古代の人々はどうのような倫理を持って生活していたのだろうか。残されている宣命からは「清明心、慈愛、正義」

の倫理を尊重していることが見られる。当然ながら、一般の人もこれらの倫理を基本として生活していたと思う。一方、自然に対する意識は脅威と尊厳だろう。自然との共存でしか生活できなかった古代では、洪水や干ばつ等の自然現象によるなすすもない生活破壊の恐怖がいつもあっただろう。神話にみられるように、あらゆるものに宿る八百万の神への尊厳とご加護を求める意識があったのも当然である。

総会予告

令和二年度

宝相華会総会

日時 令和二年四月十二日(日) 十時開会

場所 ホテル日航奈良(丁R奈良駅西側)

会費 五,〇〇〇円(当日受付でいただきます)

(但し、新入会員無料、平成二十七年以降の卒業生三,〇〇〇円)

世話係 昭和53年卒

恩師の先生方も来ていただく予定です。お誘い合せの上多数御参加下さい。

宝相華会事務局

心」という倫理が失われつつあるが、八百万の神を祀りこれらの神を崇拝していた古代の自然に対する精神は今も私達の潜在意識としてあるのではないだろうか。なぜなら、自然に打ち勝とうとしていた以前の防災対策は、最近では自然災害から自分の命を守る為の避難や避難所での共助を積極的に進めており、明らかに変化がみられる。再び相互扶助の概念や自然への脅威を意識するようになったようだ。

二〇三〇年に向けてのSDGs(持続可能な開発目標)が国連サミットで二〇一五年に採択された。最近ではSDGsのカラフルなシンボルバッジを襟に付けている人も多くみられる。開発目標には貧困問題、エネルギー問題さらに経済問題等十七の大きな分野が示され、各国でこれらの取り組みが実施されている。取り組みの効果がみられるのはまだ少し先のようにである。しかし、将来の人々のために取り組みねばならない事は開発目標の達成と同時に、

今私たちが何を犠牲にできるかではないだろうか。「時間の経済学」の冒頭に書いてるように「地球温暖化や財政危機など、社会の持続性を脅かす問題に直面して改めて痛感するのは、次世代の人々と私たちが現在世代の利害との対立に関して、私達はいかに無力であるか、という事である。」と書かれている。将来に対しての解決策に取り組むことと同時に、今を生きる私たちが将来の利益になるために、なにかを犠牲にしなければいけないこともあるのではないだろうか。

最後になりましたが、今年度の事業として宝相華会のホームページを開設しました。会員相互のつながりの広場として活用して頂ければ幸いです。現在の会員数は四万人に達しようとしています。同窓会の連絡にも多くの費用が必要となりますので、ホームページの会員登録を利用して、名簿の作成(非公開)や会員への連絡をする予定です。会員登録へのご理解とご協力をお願いします。また、

奈良高校の移転によりなくなる校舎を映像で残すプロジェクト(平成元年卒業生が中心)にも取り組んでいます。

着任のご挨拶

学校長 中野善久 (昭55年卒)



今までの学び舎で残すべき貴重な映像等がありましたら事務局にご連絡いただければ幸いです。

巡らしているところです。ご存知のとおり昨年六月に

秋を迎えております。皆様に秋をおかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、母校奈良高校に物心両面にわたり暖かいご支援、ご協力を賜っておりますこと、厚くお礼申し上げます。

法蓮の校舎からは今日も東には若草山と、それを背にする東大寺の薨や興福寺五重塔を、西には平城京跡を眺望す

ることができ、改めて古都奈良を望む恵まれた環境での本校のこれまでの歩みに思いを巡らしているところです。ご存知のとおり昨年六月に県教育委員会より「県立高等学校適正化実施計画」が発表され、本校は令和四年四月に現平城高等学校跡地に移転することとなりました。これは本校の耐震整備の早期完了と、そのために今ある校舎の有効活用を趣旨とする措置であります。

しかしながら、耐震化に対応した暫定的な措置が必要と判断され、移転までの間、仮設校舎で対応することになり、本年度、仮設校舎が西グ

ランドと東グランドの一部に完成する八月まで、一・二年生は旧城内高校の学舎で、三年生は法蓮学舎で分かれて学校生活を送ってまいりました。この間、生徒は、環境の変化を決して言い訳にすることなく、自分のやるべきことを見据え、学習や学校行事、部活動に懸命に取り組み、各自の学校生活を創造性・生産性豊かなものに高めてきました。こうした姿に接し、本校生徒の底力を再発見したように感じ、前向きな姿勢を貫く生徒を頼もしく誇りに思っています。

二学期からは、再び三学年揃って法蓮学舎において仮設校舎を中心にして学校生活を送っております。考えてみれば、私たちは環境が変わると、それを乗り越えていくだけの力を獲得することで成長してきました。これまでと多少異なった趣の学校生活にはなりますが、そこから生徒は新たな力を逞しく育ててくれるものと期待しています。会員の皆様には、大変ご心配をおかけしておりますが、生徒

の充実した学校生活に向けてこれまで同様、奈良高校を温かく見守っていただけますようお願い申し上げます。

我々教職員は、施設・設備面ばかりにとらわれることなく、教育の要諦は「心」を育てること、つまり、生徒の内面の充実を図ることで、未来志向への気概を育て、今後直面する様々な課題を克服していく強い「心」を育てることが教師の本分であることを改めて認識しているところであります。そのため今後も生徒との関わりを大切にしながら生徒としっかりと向き合い、励ます教育を進めてまいります所存です。

本年度四月、本校を卒業して四十年ぶりに教師として戻ってきました。高校時代の面影を残す風景を見て、当時の思い出が蘇ってきます。中庭にある二人の古代ギリシャの賢者の銅像を教室の窓から眺め、あのような明晰な頭脳にあやかりたいと恨めしく思いながら授業を受けていたこと、食べ盛りで弁当を食べた後、よく食堂へ行き、中華そ

ばやカレーライスを楽しんで食べたことなどが懐かしく思い出されました。一方、当時と様子が大きく変化したと感じたのが、校舎周辺の樹木が立派に育ったこと。私が入学したのは、現校舎が完成してから十年経った時で、植樹された木々はどれも身の丈ほどの高さで校内は閑散とした印象は拭えませんでした。今こうして青々と茂っている太い樹木を見ていると、生徒と教職員が本校の伝統を受け継ぎ、懸命に学校を発展させてきた年月と歴史の重みを感じます。

私自身もこの四十年間、変化したように思います。本年度の総会の挨拶でも申し上げたのですが、四月、着任した時に学校の桜並木を改めて眺めて、高校時代にはそれほど感じなかったのですが、心から美しいと感じ入ったことです。同じものであっても、年齢、自分の立場、現在の今の気持ちに重ねて見ると「見え方・感じ方が違う」ということに気づかされたように思いました。私のこうした変化の

理由を上手く説明できませんが、三年後には法蓮を離れるという郷愁の念、あるいは教師としての本校教育への思い、あるいは卒業生としての母校への思いで、一層美しく見えたかもしれません。いずれにせよ、母校というものはいつまでも私たちの心の拠り所であり、自分の心を見つめ直し、自身を再発見する場所であってほしいと思います。確かに校舎は風雪に耐え古くなりました。しかし、そこ

には燦然と輝く伝統が息づき、生徒の「自主創造」のエネルギーが今も健在であります。これからも奈良高校がそうした母校として、会員の皆様の中に潤いと勇気を与え続けることができるように、教職員一同、心一つにして本校教育の充実・発展に精進してまいります。同窓会の皆様方には、重ねて奈良高校に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

恩師の便り

「四八会」のいよ



私たちの学年が、平成二十七年に宝相華会総会の幹

植村 育代

元教頭（昭48年卒）

事をやらせていただいて、早や四年が過ぎました。

最初は、総会の一年半前から二人で名簿の整理から始めました。そうしているうちに徐々に一緒にやってくれる人が増え、最終的に五十人を超

える人たちが幹事として総会を運営してくれました。準備期間の間は、毎月一回程度幹事を開き、そのあとは宴会というのが恒例になっていました。幹事会も会を重ねるごとに知らなかった人同士がどんどん仲良くなっていききました。そして、総会当日には、同級生が一八三人も集まり、盛大な総会及び学年同窓会を開催することができました。

この総会のあと、幹事をした人たちが毎年同窓会を開こうということになり、私たちの学年が卒業した昭和四十八年にちなんで「四八会」と名付け、毎年五月の第三土曜日に開催しています。三年一組から順番に幹事を持ち回りしながら和気あいあいと友好を深め合っています。最初は、幹事をやった人たちの集まりでしたが、回を重ねるごとに参加人数も増え、様々な同級生が集ってくれるようになりました。

この「四八会」が元となつて、「山とも会」というグループができ、新年会から始まり、春や秋はハイキング、

夏はビアガーデンやバーベキュー、冬は忘年会というのが定例になっています。また、「山ともゴルフの会」もでき、ほぼ毎月十数人が集まって楽しくラウンドしています。他にも色々なグループ

ができ、それぞれに第二の人生を謳歌しています。寿命がどんどん伸びている現代、私たちの人生もまだまだこれからです。気の合う仲間達と積極的に人生を生きて行きたいと思えます。

奈高「歴史研究部」の思い出

安井孝至

前校長（昭52年卒）



母校である奈良高校校長として、今春まで三年間の日々を、宝相華会瀬川会長様、顧問・役員の皆様方のご支援、ご指導のもと、紆余曲折しながら何とか走りきったというのが今の実感であります。教員を超える能力を持つ生徒を枠にはめず、自由に伸び伸びと育み、ニーズがあれば「取り敢えずやってみる」、担当組

織がないのなら「できる人であってみよう」、そういう手法で、校長としては、「自主創造」の校風のもと、教員・生徒諸君に、何ものにもとらわれず、個を大切にし、創造性豊かであれ、と訴えてきました。この間宝相華会の皆様には、生徒を海外で研修させる「グローバル人材育成事業」、本校卒業生の教授等を訪ねる大学探訪「高大接続推進事業」を特別会計「奈高教育推進基金」として予算化されるなど多大な協力をいただいたところであります。

校長として、生徒の安全確保のための耐震事業を最後まで見届けられなかったのは心残りであり、忸怩たる思いであります。母校の教育内容と質の維持向上のため、今後微力を尽くして参りたいと思っております。

さて、今年度宝相華会総会は、私たち昭和五十二年卒の面々が幹事学年として企画・運営に当たることとなり、そんな中、今も鮮明に記憶に残る高校時代の思い出を呼び起こす旧友との再会がありました。所属していた歴史研究部でグラウンドの片隅に堅穴住居を復元し、青丹祭前日、寝袋を持参してこっそりそこで一夜を明かしたときの「相棒」でした。ここでは、記憶のままに、少しそのことを書かせていただきたいと思います。

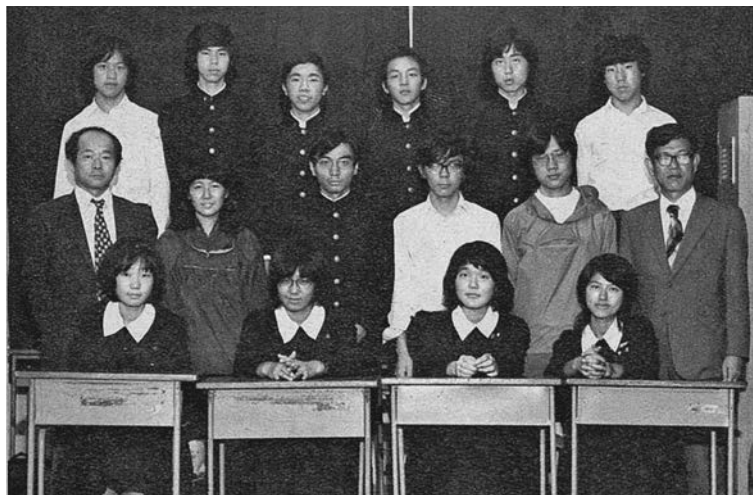
私は、歴史研究部では不熱心な部員でありましたが、この青丹祭で堅穴住居を復元したことは忘れ難く、教師となった後も文化祭の折には生徒に語り、自クラスの展示発表は必ず天井にその一部が付

くことを条件とした巨大歴史的建造物を制作することを強いて、生徒とよくせめぎ合いを演じてきました。

高2の頃は、偉大な級友たちの目もくらむばかりの活躍に圧倒されながら、自分も将来何か大きなことができるものと根拠のない自信を持つ樂觀主義者でした。部活に熱心に取り組んだわけでもなく、飄々と日々を過ごした私に、自らを鼓舞し、高校生活の輝きを今も心に残してくれる活動がこの住居地の復元でありました。

そのころの歴史研究部の活動の様子が、新人物往来社発行の「歴史読本」昭和五十年十二月号「歴史クラブ訪問」に掲載されました。記事には、「古代帝都・奈良、そこには歴史と伝統の渦が時間の壁を苦もなく打ち破って、連綿と今日に息づ

いている。故郷を語ることで、日本の古代史そのままである奈良の若者たちの幸福と不幸、それは他所者の想像を超えたものであろう。奈良高等学校の歴史研究部は大正十三年の学校創立とともに発足している。」とあります。取材当日は雨で、ヤツケ姿の部員が復元作業をしている様子、顧問の和田嘉寿男先生・水木善夫先生が部員を指導しておられる姿、百十号となっ





た機関誌「エトス」などが掲載されています。私は、もう何十回も受け持った生徒たちはこの記事を見せながら、堅穴住居の骨組みに使う竹を校舎脇の竹藪から勝手に切って叱られたこと、農家の部員の保護者に屋根葺き用のワラを大量に運んでいただいたこと、そして定時制授業後の消灯を待つて校庭に入り、復元した住居で一泊したこと（もう時効となっていることを期待）、翌早朝、部員からの朝食の差し入れがおいしかったこと、青丹祭当日も大雨で住居内は池となり排水溝が全く機能しなかったこと、最終日、復元住居取り壊しの段になって永久保存してほしい

と顧問の岡村隆司先生に直訴しに行ったこと、岡村先生からは「教育は規則だけでは進まない。しかし、永久保存をいうなら最初からその計画を持つべきではなかったか」と諭されたこと、後に岡村先生とは広島県の教員であった私が奈良県の教員採用試験を受けたときの二次試験の面接官として再会したこと、また同じ高校へ同時異動（先生は教頭として）となり、私の結婚式の仲人を務めていただいたこと、何よりも私が歴史の教員を志す契機を与えてくれた先生であることなどを、縄文時代の授業の度に飽きることなく語り続けてきました。

ここにこの記事の一部を掲載し、お世話になった先生方のご冥福をお祈りするとともに、今は途絶えている歴史研究部の復活を祈念し、わが母校の青丹祭が今後も文化の香り高い祭典となることを期待するものであります。

かく自己流で駆け抜けた教員人生を今日まで続けて来られたのは、その時々私を鼓舞し、導き支えてくれた多く

の人たちのお陰であります。とりわけ宝相華会の諸先輩方には格別のご支援、ご鞭撻をいただきました。深謝すべき人の多さが、そのまま私の人

生であり、私の誇れることであります。ありがとうございました。今後も、母校と共に本会益々の隆盛と発展を確信しております。

知ってそうで知らない 「八つの春日若宮おん祭が由来、 日本唯一、日本最古」

花山院 弘 匡

元教諭（平16〜20年在職）

奈良高校卒業の皆様には幼い頃からなじみ深い春日若宮おん祭は、日本最高の信仰・芸能・文化の祭です。日本最古、日本唯一、おん祭からの由来などのことが多数あります。十二月十七日のおん祭の大行列は、奈良市の方々には年末の風物詩としてなじみ深いと思います。まず一つ目はこれほどの大きな祭で、平安時代から今まで途切れることの無く続いている祭としては、日本唯一と言ってもかまいません。他の多くの祭は長

い歴史の中、戦乱などにより途切れています。そのため国の重要無形民俗文化財に指定されています。二つ目、若宮大神様が夜中に御旅所まで御渡り（遷幸・還幸）をされますが、その御様子は日本の古代最高の神遷しの形が唯一残っています。古代の伊勢神宮の遷座の形です。三つ目は春日大社では能のことを今でも古名の猿楽と呼びます。おん祭は平安時代末に始まりましたが、ずっと猿楽が奉仕、その中で百年後に観阿弥、世

阿弥が芸術性を高め能を創作しました。猿楽は春日大社一之鳥居を入った所の神様の影向の松にて「松の下式」を行います。能は神様の松の前で舞うことから、能舞台上に描かれるようになりました。描かれている松は春日大社の影向の松なのです。四つ目は若宮の神楽殿は日本最古と言われ、神社に常駐する巫女の始まりは若宮で、おん祭にて数多く奉納します。五つ目は御旅所祭が始まるに当たり「埒明けの儀」が能楽師の金春流にて行われます。このことは日本最古の諺（ことわざ）辞典の「諺草」にも書かれています。「埒が明かない」との諺はおん祭からです。六つ目、御旅所祭は八時間続けたの大芸能奉納祭です。御仮殿の前、芝舞台の芝の上に居て芸能を奉納し、芝の上に居て芸能を拝観することから、芝居との言葉が生まれたと言われます。七つ目は多くの芸能が奉納されますが、その中には春日大社にのみ残る、「細男」という古代の舞があります。九州には形は

残っています、しっかりと舞うのはおん祭が日本です。八つ目はシルクロードを通り奈良へ伝わった舞楽、春日大社には古来からの南都楽所があります。おん祭では恒例の祭としては唯一、千三百年前に伝わった舞楽を

十一曲五時間に渡り舞い続け神様へ奉納を致します。

平安時代以来の大和一国の大祭である春日若宮おん祭を今一度じっくりとご拝観下さい。

(春日大社 宮司・県教育委員)

平成三十一年度 宝相華会総会記念講演・懇親会報告

平成三十一年度実行委員長 藤井茂久 (昭52年卒)

奈良高校は大正十三年に旧制奈良中学校として創立し第一期生が卒業した昭和四年に宝相華会が発足し、第一回総会が昭和四年に開催され、この度第九十一回目を迎えることができました。ちなみに奈良高校の創立周年は今年で九十六年、四年後には一〇〇周年を迎えます。宝相華会総会は毎年四月の第二又は第三日曜日に開催されてきました。今年度は四月二十一日に開催されました。恒例により

還暦を迎えた学年が幹事となります。今年度の幹事は、私ども昭和五十二年卒業生が担当させていただきます。

昭和五十二年は全米女子プロゴルフ選手権で樋口久子が優勝、日本人初の世界タイトルを獲得。津地鎮祭訴訟の最高裁判所大法廷判決。王貞治(巨人)がハンク・アーロンを抜く七五六号本塁打の世界新記録を達成などの出来事がありました。大相撲横綱は輪島と北の湖、総理大臣は福田

越夫氏でした。私達の学年は卒業後一度も正式に同窓会を開いたことがなく、今から約二年前に実行委員会立ちあげ準備のために有志が集まったのが四十年ぶりの再会となったのでした。何度かの準備会を経て、ようやく平成三十年六月二十四日に実行委員会が設立されました。このような任意団体は法人格がありませんので、会費を保管するための団体名での銀行口座を開設するには、名称、目的、事務

所所在地、代表者、役員、会員の名称、選任方法を定めた会則を作成し、役員名簿と共に口座を作る金融機関に届けなければなりません。実行委員会は合計十回開催し総会の準備を進めました。大和西大寺駅前前三和ビルのオーナー様である衆議院議員の小林茂樹様のご厚意で会議室を毎回お貸しいただき、本当に助かりました。会を重ねる毎に実行委員も増えてゆきました。実行委員会を進めるにあたっては、昭和五十一年



卒業の実行委員会委員長胡内様初め役員の皆様が六月に引き継ぎ会を開いて下さり、丁寧に準備方法を教えて下さると共に、従前の各学年から引き継いだ電子データを含む大量の資料を提供下さり、助けていただきました。実行委員会委員長藤井茂久(三年六組)、副委員長吉岡郁洋(三年六組)同新座博行(三年五



組) 同奥村浩二(三年三組)以下実行委員計二十五名で、日航ホテルとの会場打合せ、梅乃宿との日本酒の打合せ、奈良新聞への広告申込、卒業時の各クラス代表者兼実行委員による卒業生の消息調査、高齢になっておられる恩師への出席要請、御来賓の方の確定と連絡、総会時の接待、横断幕、リボン、名札、文具など準備品のチェック、ホテルへの運搬撤収、会費の徴収、ホテル等への支払い、決算処理、DVD編集、記念写真の収集、懇親会の音楽演奏の依頼など多岐にわたる業務を分

担しました。

総会は約二〇〇名収容の羽衣の間で、司会の森田康文（三年一組）の発声により定刻の十時に開催されました。実行委員会委員長藤井茂久の開会の辞の後、物故会員に対する黙祷、宝相華会歌斉唱、瀬川雅数宝相華会会長の挨拶、新会員代表として亀田峻さんに代わって日下梨々子さんの挨拶、中野善久新奈良高校校長及び安井孝至前奈良高校校長（昭和五十二年卒（三年五組））の祝辞、来賓の紹介の後、実質的な審議に入りました。平成三十年度事業報告、決算報告、会計監査報告、平成三十一年度事業報告案、予算案、役員改選と滞りなく予定通り約一時間で終了しました。役員改選は、副会長小西静子氏（高35-09-139）辞任、会計監査清水睦子氏（高39-02-118）辞任して常任相談役に就任、常任理事植原敏子氏（高42-09-150）会計監査に就任、常任理事西田正秀氏（高40-07-27）辞任、戎井章浩氏（高40-03-09）

常任理事に就任、理事宮本江梨子氏（高59-02-34）辞任、布施邦子氏（高59-02-42）理事に就任、萩原俊嗣氏（高48-07-11）、安井孝至氏（高52-05-15）、山下成人氏（高55-08-34）、坂本雅代氏（高55-03-28）以上四名常任理事に就任。総会及び懇親会の出席者は五十二年卒一四八人、全体で二四三人でした。



総会終了後は、お待ちかねの記念講演です。講師は例年の慣例に従い昭和五十二年卒業生から今年度は映画プロデューサー河井真也さん（三年五組）による「面白く、楽しく、映画人生」でした。これについての詳細を紹介しましょう。

『南極物語』での製作デスクの経験談、『チン・ピラ』などで製作補をされた経緯、そして一九八七年、『私をスキーに連れてって』でプロデューサーデビューし、ホイチョイムービー三部作『彼女が水着にきがえたら』『波の数だけ抱きしめて』など、さら星のごとく日本映画の大作・傑作をプロデュースされた大変興味深いお話をユーモアあふれる表現で聞かせてくださいました。一九八七年十二月には邦画と洋画を交互に公開する劇場「シネスイッチ銀座」を設立されたこと、映画『木村家の人びと』を皮切りに七本の邦画の製作と、『ニュー・シネマ・パラダイ

ス』などの単館ヒット作を世に送り出したことも詳しく説明して下さいました。また、自らの体験談を映画化した『病院へ行こう』『病は気から』病院へ行こう2』を製作エピソード、俳優さんとの面白いやり取りの話、岩井俊二監督の深夜ドラマを見たのをきっかけに映画の企画を持ちかけ、『Love Letter』以後『スワロウテイル』などをプロデュースにも携われた話なども次々と名作が生まれる経過を話して下さいました。

さらに、『リング』『らせん』などのメジャー作品から、カンヌ国際映画祭コンペティション監督賞を受賞したエドワード・ヤン監督の『ヤンヤン 夏の想い出』、短編プロジェクトの『Jan Films』シリーズをはじめ、数多くの映画製作を手がけたこと、近年にはベルリン映画祭カリガリ賞・国際批評家連盟賞を受賞した園子温監督の『愛のむきだし』、ドキュメンタリー映画『SOUTHERN RED 松田優作』などの製作に携わったというまさに日本映画の現代

史の本道を歩んできた道筋をユーモアを交えてとても楽しそうに語って下さいました。現在の立場について、フジテレビは平成三十年末で退職し、今は引き続き日本映画放送(株)におりますとおっしゃっていました。そして、三月頃にはイタリア中国合作映画に参加する予定、撮影の九月までには今の会社もフェードアウトすることになるとも説明されました。最初は、奈良高校時代のこと、大学受験や恋愛にまつわるエピソードに始まり、競馬番組を作りたくて、慶應大学からフジテレビに進まれた楽しいお話もして下さいました。入院体験を元にヒット映画を制作されたお話には大変感銘を受けました。あつというまの一時間でした。さらにうれしいことに、エンディングには、現奈良高校校舎の移転問題にからめ、奈良高校や奈良そのものを舞台にした映画をつくりたくなったとひらめきを披露してくださいました。

十二時から飛天の間で全体懇親会が昭和五十二年卒(三年六組)のピアノスト吉田はるみさんのウエルカム演奏に導かれて開催されました。司会の森田美芽(三年六組)と奥村浩一(三年三組)による懇親会開会宣言に引き続き、吉田はるみさんのピアノ独奏、演目 一. さくらさくら(日本古謡) 二. 幻想即興曲(シヨパン)が披露されました。素晴らしい演奏でした。最上級の音楽に皆うつとりと聞きほれていました。吉田はるみさん(高52卒)は一九五八年名古屋生まれ。幼児期より母の希望でピアノを習い、約十年を高槻市で過ごし、中学三年の夏に両親の出身地である奈良県に移り住みました(ピアノは中断)。斑鳩中学校卒業。高校での部活は中学時代と同じ軟式テニス部。ピアノは気が向いたときに好きな曲を弾く程度でした。勉強も頑張っていました。二年生のとき人生の目標がわからなくなり、不登校を繰り返し家に引きこもりFMラジオなどで様々なジャンル

の音楽をきく生活に陥ります。そうしたところ、三年になる直前、音楽室で同級生がピアノを練習しているのを見て心を打たれ、突然「音楽方面に進みたい!」と宣言し、ピアノレッスンを再開、音楽の基礎ソルフェージュや理論なども初めて習い猛勉強し、大阪音楽大学ピアノ科に入学同大学を卒業後、ドイツに留学。ケルン音楽大学を最優秀で卒業し、さらに演奏家試験に合格し同大学院修了。さらにカナダ・バンフ芸術アカデミーにて研鑽を積む。パリ・パッハ国際コンクール入選。ケルン、東京ほかでのソロリサイタル、国内外の著名アーティストとの共演、ダンスとのコラボ、現代曲の初演など幅広く活動されました。奈良では、胎教コンサート(帯解寺)、盲導犬育成チャリティコンサート(臺山寺)、県や市町村の文化イベント、学校公演などにも出演を重ねておられます。最近はポップス歌手との共演や、異色のトリオ「Trioyuu」でジャズやタンゴにも取り組ま

れています。「混声萌」「奈良の会合唱団」「郷の会」常任ピアノスト。指導者としても、ピアノをはじめ合唱や生涯学習の分野で幅広い年齢層やレベルを対象に活動。ベルギッシュユグランドパッサ市立音楽学校、名古屋音楽学校、県立高円高校音楽科のピアノ講師を経て、現在、畿央大学および畿央大学付属幼稚園非常勤講師。ソノール音楽院特別講師でもあります。

瀬川宝相華会会長の開会の辞に引き続き、恩師として唯一出席してくださった武村純一先生のご紹介、そしていよいよ乾杯の音頭が壇上で梅乃宿から提供頂いた酒樽の鏡開きの後、宝相華会顧問中村公巳様による乾杯の発声によってなされました。酒樽には梅乃宿さんの好意で宝相華会のロゴマークと「平成三十一年度宝相華会総会、発足91周年」と表示された幕が張られてありました。壇上には、瀬川雅数会長、中村公巳顧問、藤本忠彦顧問、小山新造顧問、中野善久校長、安井孝至前校長、藤井茂久実行委員

長、染谷禎章次年度実行委員長が法被を着て登壇。梅乃宿の社長さんも宝相華会員です。衆議院議員小林茂樹さまの祝電披露、宝相華会東京支部長阿部さん、大阪支部長橋本武一さんの各支部活動報告の後、しばらく歓談の時間が設けられました。四十二年ぶりの再会という方々も多くおられ、皆さん本当に懐かしい過去にタイムスリップして楽しまれていました。後半は、島崎雅行(三年五組)が司会を務め、まず吉岡副実行委員長の力作である奈良高校のアーカイブ映像がDVD上映されました。旧制中学から太平洋戦争を経て、新制高校となるまでの奈良高校の歴史がたっぷりと披露されました。次に校歌の斉唱の時間となりました。まずは奈良中学校校歌です。奈良中学卒業生がステージ横に集合し、歌手の中田さんも加わって皆で校歌を歌いました。続いて、奈良市立高等女学校校歌、総合制校歌もそれぞれ参加者の心が一つになってぎやかに晴れやかに斉唱されました。次に、

来年の総会に向けて、幹事学年の引き継ぎ式が厳かに行われました。壇上に今年度総会実行委員会から藤井茂久、吉岡郁洋、新座博行、奥村浩一が、次年度実行委員会から染谷禎章、前田哲司、山出哲史、棧敷加代子がそれぞれ登壇し、藤井茂久より引継ぎの辞が述べられ、藤井茂久委員長より染谷禎章次期委員長へ宝相華の会旗が引き渡されました。染谷禎章より次年度へ向けての決表明がなされました。そして、瀬川雅数会長はじめ、宝相華会の理事一同も登壇し、奈良高校校歌が盛大に斉唱されました。例年通り藤本忠彦顧問が約十五キロの重さの会旗を校歌斉唱中ずつと振り続けて下さいました。最後に藤本顧問の万歳三唱、副実行委員長奥村浩一の閉会の辞をもって、大盛況のうち懇親会は幕を閉じました

総会懇親会の後、五十二年卒業生だけの学年同窓会が同じ会場で開催され、四〇〇人中三分の一を超える一五〇人の出席の中、卒業後初めての楽しい楽しい懐かしい同窓会

を満喫することが出来ました。ここでも、吉田はるみさんの伴奏のもと、石田誠司さん（三年六組）のリコーダー演奏「ものけ姫」「丘の上のポニョ」「千と千尋の神隠し」、笠井バンド（笠井勝仁（三年九組）、長砂欣也（三年一組）、原田明代（旧姓河口、三年六組）、稲本淑子（旧姓安部、三年七組）、岡田とし子（旧姓角野、三年七組）、中島伸子（旧姓泉、三年五組））によるエレキピアノ、シンセサイザー、アコースティックギター、マンドリンのアンサンブル演奏「生まれ来る子供たちのために」「人生の扉」「時代」が披露されました。そして、吉岡郁洋（三年六組）製作の懐かしい写真を編集したDVDが約二十分にわたり上映されました。卒業アルバムのクラス写真や部活動、修学旅行、文化祭などの写真を一枚一枚、及び同窓生有志から集めたスナップ写真をふんだんに取り入れた我々のハイティーン時代の素晴らしい感激の写真集です。飛天の間の大きいスク

リーン二枚に映し出され、みんなじつと見とれていました。そして、全体写真は今年度は割愛し、卒業時の各クラスごとに記念写真を撮影しました。これらは、インターネットで公開されています。パソコン・スマホなどでブラウザ（GoogleChrome等）を立ち上げ、URL入力欄に<http://yahoo.jp/box/pxcTms>を入力し、yos*oka*さんのDVDフォルダーに移動。あとはダウンロードしてください。

十七時スタートの三次会は羽衣の間で引き続き開催されましたが七十人以上残り、下さり、一年生、二年生時のクラスごとに分かれて歓談しました。これもとても懐かし楽しいひとりで、朝十時から八時間を超えているのに皆疲れも感じないあつという間でした。その中で、これを機に数年に一度、学年同窓会をまたやろうという暗黙の意思疎通ができたように思います。亡くなった恩師のお墓参りを兼ねてまた近日に集まろうかという話題も出ました。

最後に、至らぬ点多々ある中、このような盛大な宝相華会総会が無事開催できたのも、諸先輩方の母校愛に満ちた伝統保存の精神と努力、実行委員を勤めてくれた五十二年卒の仲間達、遠路厭わず出席して下さった宝相華会員の

皆さまのおかげです。本当にありがとうございました。

五十三年卒の皆様、準備は大変ですが、頑張って素晴らしい次年度の総会を實行してください。楽しみにしています。

卓球が齎してくれた豊かな人生

種子田 宏

(昭46年卒)



卓球部の大先輩である上田貞夫さん（一九六四年卒）から本稿執筆依頼があり筆を執らせて頂きました。簡単に経歴を記します。一九五二年十二月生まれ現在六十六歳、一九六八年三月生駒中学校卒業・四月奈良高校入学、一九七一年三月奈良高校卒業・四月兵庫県立神戸商科

大学商経学部経営学科入学（現兵庫県立大学国際商経学部）、一九七五年三月神戸商科大学卒業・四月阪和興業株式会社入社、二〇一四年十月阪和興業株式会社定年退職、その後関係会社に契約社員として勤務、二〇一七年三月完全引退。現在は週二・三回の卓球とOB会に案外忙しくしております。本稿では卓球が僕に齎してくれた豊かな人生について認めたいと思います。

奈良高校に入学し卓球部に

入部しましたが、流石卓球名門校である奈良高校には中学でランク入りした生徒も多く、且つ僕自身も初心者でしたので、同期にも全く歯が立たず二年生末迄連戦連敗の日々でした。ただ、練習には欠かさず参加し、ランニングも人並み以上に励んでいた記憶があります。三年生のインターハイ予選シングルスで幸運にも県ベスト十六に入り近畿大会に出場できたことがその後の卓球人生に大きな影響を与えました。高校時代夏休みには大学生の奈高卓球部先輩が合宿にいられて卓球及び大学受験指導もして頂いた記憶があり、僕も大学入学後も体育会卓球部に入りたいと思っていました。

神戸商科大学では予定通り体育会卓球部に入部、勉強もそこそこに卓球に打ち込んだ四年間でした。大学では春秋リーグ戦が最大行事でリーグ優勝及び昇格が最高目標でした。神戸商科大学は単科大学で一年生三百六十人の小規模大学、且つその当時は近畿大学を筆頭に同立も強く神

戸商科大学は四部と五部に低迷してしまいました。リーグ戦では四年間合計三十一勝十一敗（単複含む）の成績を残して卒業しました。大学時代は生駒から神戸垂水まで通学し、大学での練習が終了すると帰宅途中に神戸大学、週末及び休暇時には大阪大学、大阪市大、大阪府大にも練習に行き多くの友人が出来、それがその後の人生に多くの示唆を与えてくれました。

阪和興業株式会社では大阪本社勤務で生駒の自宅から通勤して居り、週末には地元体育館や大学で練習をして卓球を継続し、奈良県代表として全日本選手権出場を夢見ていました。一九七七年に奈高クラブを奈高卓球部後輩（一九七三年卒江南さん、斎藤さん、萩原さん）と結成して各種大会に参加しそれなりの成績を残しました。一九七八年奈良県卓球選手権大会兼全日本卓球選手権予選ダブルス準優勝で全日本卓球選手権出場を逃しました。決勝対戦相手が奈高卓球部四年後輩の加島信隆さん、当時大

阪大学三年生で彼の一年上の先輩と組んでおり、その組が全日本卓球選手権大会に出場したのも何かの縁を感じました。加島さんが一九九九年三月に会社で事故死されたのが残念でなりません。ダブルスでは一九七九年度全関西卓球選手権大会でベスト十六に残ったのが最高戦績です。シングルスでは一九七九年奈良県新人卓球大会で優勝しました。その頃卓球技量のピークを迎えていました。

一九九〇年九月米国 Los Angeles 転勤後も米国卓球協会（USTA）に加盟し、地元大会に出場してました。一九九一年三月 Pasadena Open 出場時に日本卓球協会米国支部長の荒木俊さん（東大卓球部 MIT 博士、当時 NASA 研究員兼 Caltech 講師、現東北福祉大学教授）と出会い、全日本代表訪米時には休暇を取り、試合に帯同し諸般のお手伝いをさせて頂きました。一九九三年三月 New York に転勤、卓球及び全日本代表訪米時のお手伝いも継続しました。そ

の結果卓球界では雲上人であった渋谷五郎さん（元全日本チャンピオン）、伊藤繁雄さん（元全日本及び世界チャンピオン）、柴田幸雄さん（元全日本大学チャンピオン）、松下浩二さん（元全日本チャンピオン）等錚錚たる卓球人との出会いがあり、その付き合いが今も継続している方もあります。

一九九五年七月帰国し東京本社勤務、千葉県柏市在住となりました。地元強豪の花野井クラブに所属し海外・国内出張も多い乍らも卓球を継続しました。二〇一五年七月諸般の事情から生駒に戻り、二〇一七年三月完全引退したのを契機に生駒を拠点に卓球を本格復帰しました。今年四月奈高クラブを再結成復活登録し、今年六月の第一回大仏リーグでは大先輩南さん（一九五五年卒）、二年後輩江南さんを加えてチーム結成し参加して準優勝しました。その場には大先輩の奈良県卓球協会会長代行の尼崎さん（一九五四年卒）も役員として来ておられ応援して頂きま

した。現状選手メンバーが不足しており奈高卓球部OBで卓球継続されている方（性別年齢不問）を募集しております。奈高クラブの練習は二回／週（九条SC及び生駒滝寺SC）、懇親会は二〇一六年から年間三回開催しており、その内の一回は宝相華総会時に設定しています。

始まり充実した大学生活、会社時代も卓球のお陰で色々苦難を乗り越えることが出来、今に繋がっていると認識しています。こうした経験の後輩に伝承してゆくのが我々の責務と考えており、その為には奈高卓球部OB会拡充と奈高クラブ復活が重要課題だと考えていますので、どうぞ宜しくお願い致します。

「旧制奈良中学校から奈良高校に至る 学び舎映像記録」経過ご報告

梶原 正景
(平元年卒)

宝相華会会員の皆様、お世話になっております。

多くの方がご存知かと思いますが、奈良高校は耐震性等の問題のため、数年後に移転予定となっております。

「想い出の学び舎がなくなるのは寂しい」

そんな想いから平成元年卒業の同期の有志メンバー（梶

原、喜多、北原、佐藤、安田）が集まり、校舎の映像記録を企画いたしました。

おかげさまで様々な方からあたたかな応援をいただき、二〇一九年四月の宝相華会総会にて、「宝相華会一〇〇周年記念事業」のひとつとしてご承認いただきました。心より御礼申し上げます。

このたび活動紹介の機会をいただきましたので、極力ライブ感あふれるご報告を！と思ひ、これより先のレポートは佐藤・安田にバトンタッチさせていただきます。

* * *

【学び舎映像記録レポート】

■二〇一八年 春

二〇一九年一月開催予定の卒業三十周年学年大同窓会に向けて、皆で準備を重ねていた頃。

奈良高校が移転する…という話題で盛り上がる。

「校舎がなくなるのは寂しいなあ」

「通学路にも想い出いっぱいあるもんなあ」

■二〇一八年 九月

「卒業以来、学校行ってへんわ。一度訪問したいなあ」

「青丹祭なら訪問できるやんね。撮影させてもらって同窓会で上映しよう」

同級生約二十人で青丹祭を

訪問。学校にお許しをいただき、各所を撮影した。男子のシンクロナイズダンスイミングに驚いたり、昔と変わらぬ美術室や書道室にときめいたり、一行は祭り

■二〇一九年 一月

ホテル日航奈良にて学年同窓会を開催。学年のほぼ半数が出席するという大盛況だった。青丹祭訪問ビデオは七年先輩の俳優・加藤雅也さん（昭和五十七年卒）にナレーションを入れていただき、良きサプライズとなった。

当然ながらこの場でも、校舎がなくなるのは寂しい、という声が多数あがる。

「プラトンとアリストテレスはどうなるんや！」

「置き去りにされたらかわいそう……！」

■二〇一九年三月

せめて校舎をもう一度見ておきたい…という声が、同級生のみならず先輩方からも多く聞こえてきた。

「四月以降は立ち入り禁止エリアがさらに増え、工事も始まってしまふ…。映像で記録しよう！撮るなら今しかない！」

こうして、梶原・喜多・北原・佐藤・安田が「校舎記録を目指す有志メンバー」として撮影企画をスタート。

卒業生で撮影協力いただけの方を探そうと、奈良高校のアルバム撮影を代々担当されている「写真のスミヤマ」の隅山佳洋さま（昭和四十三年卒）、関東から帰省中のカメラマン松山佐保さま（平成九年卒）が、協力してくださることに。

宝相華会会長の瀬川雅数さま（昭和四十三年卒）も、「ええな！頑張って！宝相華会ホームページをリニューアルするから、そこに写真を載せたら？」と、渡りに船のご提案をくだ

さった。

■二〇一九年 四月

宝相華会の総会にて。有難いことに、校舎映像記録企画を「宝相華会一〇〇周年記念事業」のひとつとしてご承認いただき、コスト面でも応援いただけることになった。

同時に、より多くの卒業生の方に懐かしんでいただけよう、奈良高校だけでなく旧制奈良中学校をはじめとする旧校舎の写真も掲載

することになった。

「写真のスミヤマ」さまよりご提供いただいた旧校舎のモノクロ写真は、重厚で味わい深く、改めて母校の歴史の重みを感じるきっかけとなった。

■二〇一九年 五月

サイトご担当の山下成人さま（昭和五十五年卒）と打合せを実施。掲載に向けてのスケジュールや作業内容を相談させていただいた。大量の校舎写真はどれも捨



大阪支部だより

第四十六回宝相華会大阪支部

総会・懇親会報告

大阪支部 幹事長 橋 本 幸 一

(昭48年卒)

てがたく、掲載分の選別はジレンマとの戦い…。
 「プラトンとアリストテレスは連れて行ってもらえるかなア」
 「あの中庭、『豎義（りゅうぎ）の庭』ていうらしいで」
 「し、知らなかった…」
 そんなことを話しながら、一枚一枚懐かしみつつ拝見している。

* * *

以上のように、様々な方のお力をお借りしながら、有志メンバーで作業を進めております。

旧制奈良中学校、市立奈良高等女学校から県立奈良高校に至る校舎写真は、来年二月末迄にホームページに掲載いただく予定です。

また今後、会員の皆様方のお力添えを賜ることもあろうかと存じます。
 趣旨ご理解の上ご協力いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



令和になって初めての総会 第四十六回宝相華会大阪支部総会・懇親会を令和元年七月十九日、シエラトン都ホテル大阪で開催しました。中野善久奈良高校校長、瀬川雅数宝相華会会長はじめ六名の来

賓を含む一四五名の皆様の参加を得て、総会・懇親会を盛会のうちに終えることができ、ご来賓の皆様はじめ宝相華会大阪支部の役員・会員の皆様のご協力・ご支援に感謝申し上げます。五十三年卒の常任幹事や同期の同窓生の皆様には、総会・懇親会の当日の司会や受付などにおいて、大変お世話になりました。重ねてお礼申し上げます。
 総会は、亡くなられた恩師・同窓生を偲んで物故者への黙祷から始まりました。その後、橋本武一支部長による開会の挨拶。その中で支部長は、武庫川溪谷や桜井聖林寺等への散策、懐かしき恩師を訪ね、総会にお招きする取り組み等、この間の大阪支部の



活動について説明しました。ご来賓の方々や総会にお招きした永田昭一先生の紹介も行ってました。
 続いて、瀬川雅数宝相華会会長から、本部の活動報告をしていただきました。その中で宝相華会のホームページのリニューアルを行い、今後ホームページを積極的に活用して会員の交流が活発になるよう図っていきたいと述べられました。また、宝相華会の特別会計として奈良高校教育推進基金を立ち上げ、現役の

奈良高校生の支援を行っていることも報告されました。
 今年奈良高校に赴任された中野善久校長からは、十六年目を迎えるスーパースイーンズハイスクールの取り組みなど、各方面で活躍する奈高生の頼もしい姿を聞くことができました。また、二〇二二年度の新校舎移転までの耐震整備事業のため、奈高生は一学期学年により城内学舎と法蓮学舎に校舎が分かれているが、奈高生の「自主創造」の精神と前向きな発想で、勉強や学校行事、部活動に懸命に取り組んでいることが報告されました。二学期には全学年そろって法蓮学舎の仮設校舎を中心として学ぶことができ、今後も生徒たちの充実した学校生活を送れるよう皆様の御理解と御支援をお願いしたいと述べられました。
 その後の総会の議事進行は、支部長の司会で進められ、「新役員の紹介」、平成三十年度の「事業報告」、「決算報告」、「会計監査報告」、令和元年度の「事業計画」が提案され、満場一致で承認さ



れました。

懐かしき恩師 永田昭一先生
 (昭和四十年〜五十四年在籍)

永田先生が登壇されると雰囲気は一変。奈高昭和三十年卒業の永田先生は、今年八十二歳になられても、郷里の奈良市針町で農業をしなから、地域で「健康で生き生き」をテーマとした講師として活躍されています。永田先生は昭和四十年から五十四年まで保健体育の教師として教鞭を執られました。永田先生も話されていたように、総会参加の半数をこえる同窓生は、永田先生の在職期間に生

徒として在校していました。そのため担任やバレーボール部の顧問、保健体育の授業など永田先生にはいろんな形でお世話になったという方が少なくありません。直接出合いがなくても、同じ時間、同じ空間を一緒に過ごした恩師と語る思いは尽きないようです。

永田先生の専門は保健体育科。青年教師時代は、バレーボールの選手として、活躍されたこともあり、バレーボールや体育の指導にも取り組まれましたが、昭和五十年頃から本格的に取り組まれたのが保健の授業の研究や指導でした。健康の保持増進や身体の年齢の変化、なかでも思春期の性に関する指導については、研究発表や講演をされています。



れ、高齢期を知識・人脈などの積み重ねによって、知的に成熟する人生の発展「スマートエイジング」ととらえていくことが大切ですと述べられました。また加齢は防ぐことはできないが、老化は防ぐことができるとその対処法を説明されました。時に冗談を交えながらの永田先生のお話は、昔懐かしい保健の授業を思い起させる楽しいものでした。貴重なお話ありがとうございました。

盛り上がった懇親会
 懇親会は、総会三期の世代

東京支部だより

から昭和六十年卒業の世代までの参加でしたが、同期の同窓生はもちろん先輩・後輩の同窓生との交流で盛り上がりました。最後になりましたが、昭和五十二年卒業作の今年度の思い出DVDと三十九

奈良高校よ、永遠に

野崎 順子
 (昭31年卒)

年卒のコール宝相華の有志の皆様による「花は咲く」の復興支援ソングと「乾杯」の合唱は総会・懇親会に花を添えていただきました。本当にありがとうございました。

東京に二度目のオリンピックが近づいてきました。今年二〇一九年五月一日には、年号も令和に変わり、新しい天皇が即位され、皇后と共に国内外からの期待も大きいようです。

宝相華会東京支部の総会は、この天皇ご一家のお住まいの皇居近く、落ち着いた佇まいの法曹会館で毎年十一月に開かれています。どうして法曹会館で？と思う方もおありでしょう。

それは県立奈良高校の前身、旧制奈良中学時代の先輩寺田治郎氏が、最高裁判官として立派なお仕事をなさったお蔭で、このように格式ある会場を後輩たちが使わせていただけるのです。毎年、日比谷交差点を渡って、公園を左手に銀杏が色づく並木道を会場に向かうとき、これから奈良を思う時間が始まるのだなと実感します。

先輩、後輩との再会、奈良から来て下さる校長先生がお

話になるホットな話題、文武両道で張り切っているらしき後輩達の近況をお聞きするあたりから、私達かつての高校生は、昔の自分をだぶらせて、総会に溶け込んでいくようです。少なくとも私は、そんな時間の流れ（逆流？）を楽しみに出席し続けてきたように思います。高校時代という多感な時期を共に過ごした思い出が、記憶の奥から生き返ってくるからです。

ずいぶん前に、この会場で前述の寺田治郎氏といろいろ昔話をさせていただいたことがありました。御本人が、私の大伯父、古川正澄が初代奈良中学校の校長をしていた時の第一期生だと仰ったからです。その頃、市ヶ谷に通っていた私が、すぐ裏手の高台に最高裁判事の官舎があつて、門はいつも固く閉じられ二十四時間警官が立っていたことな

どをお話すると、寺田氏が古川校長は厳しい人で、今では考えられない日の丸弁当を推奨していたこと等々当時のことを詳しくお話しして下さいました。裁判官として最高位に就かれた我が大先輩は、笑顔の優しい気さくな紳士でした。最近では若々しい後輩がぐつと増えて、会場も生き生きしてきました。その一例が、次の出来事です。

二〇一九年五月十六日朝日新聞夕刊紙上で、昨年の宝相華会総会で演奏して下さった「葵トリオ」（二〇一八年にミュンヘン国際音楽コンクールでピアノトリオ部門日本人初の優勝）の東京トッパンホールでの演奏会（五月一日）が絶賛されていたのです！！



葵トリオの伊東裕さん（向かって右）ピアノの秋元孝介さん（左）に囲まれ幸せな私達、阪本史代さん（向かって右）と私。阪本史代さんとは大学も同じ。もちろん私が大先輩です。

令和元年度「寶相華会東京支部総会」のご案内

記念講演

「私が見たブラジル」

～JICAシニアボランティア体験を通して～
2015年度派遣JICAシニアボランティア日本語教師

阪本史代 氏

【プロフィール】



1968年(昭和43年)奈良高校卒業。
1972年東京女子大学文理学部日本文学卒業。
子育てが一段落した1986年から日本語教師養成講座に通い、1987年に東京文化語学院の日本語教師となった。
1995年東京女子大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了。
その後、長沼スクール東京日本語学校や東海大学国際教育センター(14年)、駒沢女子大学人文学部(10年)、武蔵工業大学環境情報学部で非常勤講師として留学生の日本語教育に係った。また、東京女子大学現代文化学部で日本語教師養成のための授業を担当した。
国外では、韓国漢陽大学での教員(2002年)やブラジルでのJICAシニアボランティア日系日本語学校教師、ベトナムITM外語センターでのボランティア日本語教師(2019年)の経験がある。
また、北方四島交流推進のための日本語講師として、1999年夏色丹島で活動した。
現在は長沼スクール東京日本語学校非常勤教職員。

日時 令和元年(2019年)11月9日(土) 15:30～19:30

| | |
|---------------|---------------|
| 寶相会東京支部総会 予定: | |
| 第1部 総会: | 15:30 ~ 16:15 |
| 第2部 記念講演: | 16:20 ~ 17:20 |
| 第3部 懇親会: | 17:30 ~ 19:30 |

場所

法曹会館

千代田区霞が関 1-1-1
Tel: 03-3516-2146
※JR:有楽町線 徒歩10分
丸の内線/日比谷線:
霞ヶ関駅A1出口 徒歩5分
千代田線/三田線:
日比谷駅A10出口 徒歩5分
有楽町線:桜田門駅
5番出口 徒歩1分



会費

8,000円

問合せ先

事務局 菅原 潤一 (高44年卒) e-Mail: jsuga@ii.em-net.ne.jp

三重奏です。私自身も十数年前から始め、二つの弦楽器と会話をしているような気分です。練習を続けてきました。三重奏のみならず四重奏・五重奏など、ピアノと弦楽器とのアンサンブルはまことに奥が深く、楽器を演奏する楽しみを満喫させてくれます。

葵トリオは全員が平成世代の若者たちで、奈良高校出身はチェロの伊東裕(ゆう)さんです。ピアノ・ヴァイオリンの方々は東京芸術大学の同窓生。演奏の経験を積んで挑戦した国際コンクールで、日本人として初めてピアノ三

重奏部門での優勝は、日本の音楽界に名を残す快挙と言えるでしょう。今後が期待されます。

幼少の頃からピアノを習っていた私は、学芸会では合唱の伴奏をすることが多く、一度は皆と歌いたいと頼んだ記憶があります。それも実現せず、おまけに奈良高校の校歌の伴奏までお鉢が回ってきて録音もされました。その古いレコードは今も手許に残っています。

ピアノと付き合ってきた長い年月、私の場合、とにかく練習時間の捻出が問題でした。学生時代も社会人になっても、音楽家を選ばなかったシロウトがピアノを続けるにはそれなりの工夫が必要ですが、それでも今なお結構楽しんでいきます。

音大に行く実力もなく、それ以上に他に興味の対象が多かった生意気な頃、薦められるまま学生音楽コンクールを受ける準備に入ったのですが、「毎日八時間の練習を」と言われた瞬間、これは私が進む道ではないと決断しまし

た。未練も何もない呆気らかんとした中学生でした。この準備期間が、図らずも将来の進路を考える又とない機会になったのではないかと思っています。

初めてピアノの手ほどきをしてくれたのは母でした。象牙の鍵盤は色が変わり、子供にはかなり重かったことを思い出します。今も象牙の鍵盤はあるのでしょうか？

その母も、この三月、百六才を目前に亡くなりました。静かなホームの個室の壁いっぱいには奈良の写真や風景画を飾っていましたが、私が奈良に行く度に買い求めた色とりどりのお守りも絵に挟まれてアクセントになっておりました。母は前述の旧制奈良中学校初代校長の姪に当たります。が、幼くして実父を亡くしたため、父親替わりに育ててくれた伯父へのせめてもの感謝の気持ちだったのでしよう。伯父を見送った後、簡単な事務職を任せられ奈良高校で働いていたことがありました。少しは恩返しが出来ると思っていたのかもしれませんが。

私は学生時代から東京に移り、もう六十年以上も住みつくことになってしまいました。が、鎌倉よりも、京都よりも、奈良は近くにありません。

卒業後も日本の首都「御膝元」で、日本と世界の「時代のうねり」を身近に感じながら、忙しく刺激に満ちた年月を送ってきました。仕事を通じて国内外の交友を通じ、ある

ともしび会

あの頃のこと

最近、中高年者の登山ブームで遭難事故が増加しているとのこと、私たちの年代がその先駆けであった気がする。第一線を退き、子育ても終えて、若かりし時を思い起こし山登りをしたくなる、私もそんな年代の一人です。確か高校二年の夏だと記憶しているが定かではない。

意味、東京しか知らないローカルな人間になっているのかもしれない。先輩のお陰で続いていた宝相華会は、同期の会と共に、年に一度の嬉しい「里帰り」となって心を和ませていただいていることに改めて感謝しております。どうぞ末長く盛会でありますように。

意味、東京しか知らないローカルな人間になっているのかもしれない。

米村 文 男

(定昭39年卒)

同級生、出原君、和田君、品川君(卒業何年か後消息不明)、渡邊さん(年上であったのでさん付けで呼んでいた。若い頃に亡くなられた)丸谷さん、池尻さん、私と七名、そして森下先生とで、登山と言うよりも、キャンプで美ヶ原高原に行つたのが登山に行くきっかけに

なつたと記憶してる。その次の夏、今度は北アルプスの白馬に同じメンバーで登山することになり、今回は木原先生と笠置先生が同行してくださりました。白馬駅から細野までバスで行き、一時間くらい歩いたのだろうか、大雪渓取付きで休憩。

雪渓の下を流れる水辺で皆で並んで顔を洗う「ヒヤッ冷たい」大きな叫び声に横を見ると、満面子供みたいな笑顔でオールバックの髪を濡らしながら大はしゃぎ、鼻が高く武士の風貌の木原主事先生のこんな一面を見たのは感動ものです。今でもその光景は脳裏に焼き付いている。

当時はまだ登山ブームが始まったばかりで、ハイキングがブームになり始めたころ、トランジスタラジオを持って行き、フォークダンスをしたり、コッフェルでコーヒを沸かしたりして楽しんでた延長で、キャンプ、登山に進んでいったと思います。

そんな高校生が、同級生で登山すると言う、よく学校も

許可してくれたものです。先生も仕方なく同行して頂いたものと感謝しています。

笠置先生はご健在で、先生を囲んで年一回「迦楼羅会」が開かれ、ここ数年は参加出来ていませんが、できるだけ参加したいと思っています。木原先生は、早くにお亡く

なりになり、森下先生を数年前から、消息を探しているが分らない。

今年夏、八ヶ岳（北岳）に登って来ましたが、近くに美しヶ原高原がある。今では車でもいけるが、もう一度あのメンバーで行ってみたいと思う今日この頃です。

「定時制の思ひ出」

土 岐 美栄子

(定昭40年卒)

梅の花が散り染める頃、一通の封書が届きました。手に取ると、ともしび会という文字が目飛び込んできました。お恥ずかしい話ですが、何年に卒業したのか遠い昔のことと曖昧です。今からタイムスリップして懐かしい思い出を思い返していきたいと思っています。

職業や年齢が様々な生徒が小走りに校門を潜ります。誰もが昼の仕事の疲れを見せず、生き生きと学びにやっ

来ます。先生方も優しく待ち受けて下さいます。入学当時は皆よそよそしかったのが、二ヶ月ほど経つと男女関係なく和気あいあいの授業風景です。二年生の時です。国語の授業で上高地という題の旅行文を学びました。とても詩情豊かな作品です。五十年前上高地へは今のよう簡単に行けません。私はこの未知の世界を覗いてみたいと思っていると、私と同じ思いの友人が七人もいたのです。上高地へ

行くには学校の許可が必要ですが。担任の先生は始め反対されましたが、国語の先生は、授業している間に自分も興味を持たれ、「皆連れて行ってやる。責任は私が持つから計画を立てなさい」と言っていた。学校は許可も下り、付き添いの先生三人と、男子四名、女子三名計十名での旅が始まりました。登山靴、身体半分程のリュックを背に、国鉄奈良駅から夜行列車に乗りました。私達は、初めての長旅が嬉しくて、窮屈な車内でしたが、お喋りしたり、先生に悪戯しに行ったり楽しく過ごして、何度かの乗り継ぎで十時間以上かかりやつと早朝まだ薄暗い頃に松本駅に着きました。

も歓声が上がっています。奈良の田舎の澄みきつた所に住んでいます。上高地の空気の澄み方は、また違います。夏であるのに梓川には、水の冷たさで五秒と手がつけれられないのです。また透明度も見事です。皆で顔を洗い、目を覚まし、何秒間手や足を浸けていられるのか我慢大会をしたことが思い出されます。

左に雄大な焼岳がそびえ、梓川の前方に穂高連峰が目飛び込みます。そして河童橋で皆で記念写真を撮り、又大きなリュックを背負い、上高地のシンボル、ウエントン碑（英国の宣教師で初めて上高地を世に知らしめた人）へと向かいます。梓川を遡って行進し、白樺やカラ松、化粧柳、高山植物を眺め、最終目的明神池キャンプ場へ向かいました。山は暮れるのが早く、バーベキューの場作りは登山経験の多い英語の先生、男子生徒は、材料（お肉等ありません）を用意し、女子は飯盒でお米を炊きおにぎりを作るのですが、作ると同時に男子が手に取って口に頬張る

ので、一向に終わりません。先生方もよく見ると、口の横にご飯粒がついているではありませんか。それを見て女子も作るのをやめ飯盒に手をつき込み食べました。今のうちに各所にコンビニ等その当時はありません。朝昼抜きでしたので、皆ご飯粒を取り合いながら、星空満天の下で肉無しのバーベキューと先生方の若い頃の話聞きながら、友人とさらに友情が深まり、本当に良き先生良き友とめぐりあえたこと感謝します。夕ご飯の後は、山小屋で昨日からの疲れで折り重なるように皆爆睡です。そして二日目の朝、梓川のせせらぎの音と小鳥のさえずりの声に目が覚めました。全員で朝靄に煙る明神池を散策しました。余りにも神秘的な姿に皆立ちすくんだのを覚えています。五十年前の上高地は、開放されていた未知の世界でした。今では、梓川の山道も整備され、スニーカーやヒール、半ズボンでも行けることに驚きます。そして、三年生で生徒会役

員をしました。毎年恒例のバスツアーの担当を任せられ、奈良交通さんで資料を貰い、それを元に行程表を作成し、当日、参加者全員に渡したところ、京都あたりからバスの中が騒がしいのです。「柳橋！これバクリやで」と一人の男子に言われたのです。

何と私の作った行程表が、バスガイド様の説明とそっくりそのままだったのです。資料そのまま丸写しだったので、大変大恥をかきました。しかし定時制の仲間と楽しい多賀神社のお参りの旅でした。

三年生で四年生と一緒に、九州一周の修学旅行に行きました。高崎山で、友人七人で猿の群れに入っていくと、一匹の猿が私のスカートの裾を握ったのです。

友人はわーっと去っていき、私は猿の握りを解こうと引つ張りますが、猿も負けじと威嚇してきます。それを見て周りの人は大笑いです。私は恥ずかしさと怖さでパニックです。友人が飼育員を呼んでくれて一件落着きました。

この旅行では、助け合い、教え合いという事を学びました。上高地の旅行と共に、一生私の心に残っています。

私事で恐縮ですが、全日制の体育の先生に奈良県体のソフトボール投に出場するようにと言われました。しかし県体には、職場の卓球で既に登録されています。二重登録になるためお断りしましたが、「構わん。出場せよ」と言われ、当日は、両方の会場を歩き来し、大変でしたが、翌日新聞を見ると、ソフトボール投で三位入賞していました。

卓球クラブでは、定時制の大会で奈良高校定時制初めての団体優勝も味わいました。この時代の定時制は、本



に先生も生徒も一体であり、上級生は、下級生に対して弟や妹のように接していたと思えます。又下級生はやんちゃも言うが、上級生に接する時は尊敬の念を持っていました。皆一丸となっていた事を誇りに思っています。

年間には本当に私の人生の糧になり、また自信になっていきます。日常の忙しさにかまけて忘れていた、大切な思い出を「ともしび会」が呼び起こして下さって本当に感謝します。宝相華の皆様、ともしび会の皆様、新元号に変わりましたが、それでもどうかお身体ご自愛下さい。そして皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

つどい会だより

!!プロローグ パート2!!

タワラモトチヨウ ヤヨイ
!!田原本町は弥生の「王都」。

ヤマトマホ
大和真秀ろばの「臍」だった。!!

つどい会顧問 中川 昭雄

(通平10年卒)

昨年の平成三十年十一月十七日(土)。まさに秋^{アキ}。快晴に恵まれたその日。ヒストリーロマンとサスペンスに溢れた磯城^{シロキ}の郷に、しばしの別れを告げながら、私は何故

か、急にホームシックになり、こみあがる寂寥^{セキリョウ}をどうすることも出来ず、じっと見上げる霜月の天空^{ソウツク}は紺碧に晴れわたって居ました。透明に澄む天空^{ソウツク}の碧さに吸

いこまれ、私の身体の隅々まで、その光は優しく温かく抱擁してくれているように思いました。これは、今まで体験したことのない、壮大無辺の古代弥生磯城^{シロキ}ヒストリーの真っ只中に居る自分が不思議でなりませんでした。

たった今、「弥生古代遺跡・唐古鍵への誘い」からの小さな旅を終えた私は、「集い」の仲間たちと、次回の再開を指切りし、家路へと向う足どりは軽く、爽快な気分と安堵心が交錯して、今日一日が本当に有意義に送れたことを感謝し、健康であることの幸福を老体に拓しながら、私は幸福感に酔い痴れていました。

その日から暦は新しい年となり、早々に半歳^{ハントシ}が往^{ツク}ち、季節だけが夏を知らせて紫陽花^{アジサイ}が咲き、梅雨がサマタイムに暮し向きを換える六月の初め、長年に涉り連れ添う座右^{ザウ}の友(十年日記帳(2014-2023)は現在で二冊目になります。)の、第一頁を捲^{メク}つたとき、普通は余り気にとめないのに、この日はどう気が変わ

たのかと思う位、「水無月」という字が目には跳びこんできて、その文字から発する優しいアクセントが凄く新鮮なイメージで目に灼きつき、「水無月」という語源を早く知りたいと気が急ぎついて、広辞苑（現代実用辞典）から拾った約五分間、そこには、「水無月（陰暦（太陽暦）六月の異称（呼び名）で、『水の月』とあり、『水を田に注ぎ入れる月』と説明していたので、私はこの説明から「夏の季節を指す形容詞」と直感し、そして、私の実家が代々小作農家だったことから、「農業」と深い関わりがあることを直感しました。水や田は農業と超密接な関係で結ばれていることは周知のこと。私は子供の時から、六月の田起し、田植どき、苗代作りや牛や馬の世話、牛や馬は家畜として家の中で飼い、秋の繁忙期（お米の蒔入れや収穫）は特に「猫の手も借りた」いほど忙しいので、学校を休まされて手伝いました。とにかく家族総出で終日、全員が助け合い、働き、朝早くか

ら夜は月が出るまで田んぼに居たことを覚えています。だから、「水無月」は「水が無月」とも読めるのに、どうしてこれほどまでに季節と密着したのか、「田に水が無いから入れないのだ」と考えるのが順当ではないかと思えました。

私達人類にとつて、古代から食の要として一番大切にされたきた「お米」は、現代の環境にもマッチした食生活の中心的食物であるのは間違いなく、私もお米大好き人間の一人として、この尊厳を噛みしめ、また、「水無月」の文字の優しさと美しさも包容出来る、そんな一介の人でありたいと思えました。

はじめに、田原本町は青垣の山々に囲まれた大和盆地の中心に位置し、大和真秀ろばのへそであります。平安中期まで、町の中央を南北に「下つ道」（藤原京と平安京を結ぶ官道）が走り、平安末期、寺川の河川敷（多々八尾）となります。寺川と並進して、国道二十四号と近鉄橿原線が走り、今昔を問わず交通の要

地となり、近世には、寺川の今里は「大和の大坂」と言われ米の集散地となり、大いに栄えたそうです。国道沿いに唐古池（江戸時代に造成された）があり、私たちが弥生の郷に誘うかのよう、ミステリアスな「物見やぐら（櫓）」だけ建っています。

池の堤には春に桜が咲き、秋には黄金の稲穂が波をうちます。このように古代遺跡唐古鍵遺跡は、大和の大環濠の拠点集落として、平成三十年四月十七日に、「唐古鍵遺跡公園」としてオープンしました。園内には、第七十四次調査の大型建物跡が再現され、「遺構展示情報館」や、集落を囲んでいた環濠を復元した「多重環濠」、大型建物跡の「立て柱」、「大井戸」等が再現されました。

楼閣は絵画土器をもとに復元されたもので、屋根には渦巻模様の飾りが付いていて、それは、「弥生の王都」としてのユーモアとセンスが漂い、楼閣が磯城の朝霧に包まれる幻想の風景は、訪れる

人々に悠久のヒストリーを物語ってくれます。この歴史の里の東には「中つ道」が走り、初瀬川が流れ、池の堤からは、若草山、龍王山、大和三山（北に耳成）（東に香具山）（西に畝傍）が並び、金剛山、葛城山、二上山、信貴山、生駒山の山々が望まれ、「この妙な風景は、青い垣根のように、この青垣の山々に囲まれたこの池こそ、吾が日本の聖地に外ならない」と賞讃され、尊敬されてきました。

また、「弥生の王都」の由縁は、「田原本青垣生涯学習センター」に展示され、「唐古鍵考古学ミュージアム」の絵画土器等の出土品が、「国の文化遺産に相当する価値を有する」と認められたことから、茲に「弥生の宝庫」として内外にその功績が讃えられることでしょう。おわり

付記

プロローグ パート2の、田原本町は、①「弥生の『王都』」②「大和真秀ろばの『臍』だった。」を報告しま

したが、書く程に奥が深く、私の浅い頭脳では説明するだけで精一杯で歴史観が求められる程、尚更迷想するばかりで散文化したことをお詫び致します。原稿用紙を何十枚もロスし書き直しました。今回は、去る平成三十年十一月十七日（土）に訪れた「つどい会奈良散策」で、ミュージアム会場で偶然知り合った、この本の著作者である、田原本町在住の石井正信氏の「大和真秀ろば」「弥生の王都」「古事記の里」よりを参考に書きました。

なら散策便り

第七十回なら散策春の部。平成最後のなら散策になりました。

本年四月十三日にオープンされたばかりの「奈良公園バスターミナル」見学と奈良公園散策にいつてまいりました。県庁舎の東側に位置し、屋上からは、春日山原始林から東大寺、興福寺まで一望でき、2Fのレクチャーホールは三百人収容可能で、本格的

な映像装置で春日山原始林の研究映像等を上映、解説されています。観光案内やお土産店、レストランも充実されていて奈良観光にはじめてきた人には、格好の出発点になりそうでした。

参加人数は、多くありませんでしたが、足腰が弱りつつある世代の皆様には、大変喜んで頂きました。スターバックスで一休みをさせていただき、解散しました。皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。



ついで会の行事予定

第七十一回なら散策 秋の部

日時 行先 未定

第二十一回「ついで会総会」予告

日時 令和二年五月二十四

日(日) 十一時
場所 ホテルリガール春日野 1F 吉野

会費 五〇〇〇円の予定
※五年に一度開催予定です。お元氣な皆様にお会い出来ることを楽しみにしています。詳しくは、まだ準備中のため後日お知らせ致します。

令和元年度人事異動

【退職】

校長 安井 孝至 三年

【転出】

理科 浅見 卓

理科 六年・山辺高等学校 小谷友理香

理科 四年・添上高等学校 大菅 暢子

英語 六年・奈良女子大学附属 中等教育学校

書道 (再任用教諭) 池田 和正

書道 三年・添上高等学校 (常勤講師)

英語 小川 裕香 一年・登美ヶ丘高等学校

英語 リヤナ・ニメシカ 一年・登美ヶ丘高等学校 養護 塩出 麻未

【研修】

国語 七年・奈良教育大学 大学院 吉村 惇

【転入】

校長 中野 善久

(教諭) 学校教育課 参事 門口 盛雄

理科 畝傍高等学校

英語 芳田奈津子 登美ヶ丘高等学校

(再任用教諭) 数学 盛口 佳昭

(常勤講師) 畝傍高等学校 岸 佳子

国語 添上高等学校 豊川 真礼

英語 平城高等学校 岩谷 小督

養護 生駒高等学校 城内学舎

(臨時事務) 河野 輝江

西の京高等学校 徳山 奈美

新規採用

本年度の創立記念講演会 中止のお知らせ

宝相華会会員の皆様にお知らせします。本校では毎年十一月一日の創立記念日に合わせて本校出身で各界でご活躍の方をお招きして全校生徒向けにご講演を頂いておりましたが、あいにく本年は体育館が使用できないこともあり、代替施設の確保とご講演くださる講師の方との日程調整が付かなかつたため、誠に残念ではありますが本年度の講演会は中止させて頂くことになりました。

本校の創立記念講演会は昭和四十七年から続けてきている伝統行事ですので、来年は「なら100年会館」等の外部施設を使用して全校生徒に向けて有意義となる講演会を実施できるように講師の方との交渉を既に始めております。また、計画が定まりましたらこの会報や奈良高校HPを用いてお知らせしますのでよろしくご理解のほどお願いいたします。

編集後記

暑い暑いこの夏、皆様はどのように過ごされましたか。執筆者皆様のおかげで第八十号を発行することができました。ありがとうございます。

会長の記事にありますように奈良高校同窓会のホームページを開設しました。また、平成元年卒の有志により、奈良高校の思い出の姿を映像にのこすプロジェクトを立ち上げたとのことです。思い出に残る映像なり、写真なりがあれば、提供のほどよろしく願います。詳細はホームページを御覧ください。又、十一月九日には東京支部総会がおこなわれます。御近在の方はよろしくご参加頂きたく思います。

(藤原正義)



令和元年度大学入試合格状況一覧表

| 《国立大学》 | | | | | | | | | | | |
|--------|-----|----|--------|----------|----|-----|-------|-----------|-----|-----|--------|
| 大学名 | 現役 | 過年 | 合計 | | | | | | | | |
| 北海道 | 5 | 3 | 8 | 大阪市立 | 21 | 4 | 25(1) | 同志社女子 | 18 | 6 | 24 |
| 筑波 | 2 | 1 | 3 | 大阪府立 | 16 | 7 | 23 | 龍谷 | 6 | 6 | 12 |
| 千葉 | 1 | 0 | 1 | 兵庫県立 | 4 | 1 | 5 | 立命館 | 45 | 83 | 128 |
| 一橋 | 1 | 0 | 1 | 神戸市立外国語 | 2 | 0 | 2 | 大阪医科 | 1 | 1 | 2(1) |
| 横浜国立 | 3 | 0 | 3 | 奈良県立 | 2 | 0 | 2 | 大阪芸術 | 2 | 0 | 2 |
| 金沢 | 0 | 1 | 1(1) | 奈良県立医科 | 2 | 1 | 3(3) | 大阪工業 | 4 | 0 | 4 |
| 福井 | 0 | 2 | 2(2) | 和歌山県立医科 | 0 | 1 | 1(1) | 大阪物療 | 1 | 0 | 1 |
| 信州 | 0 | 2 | 2 | 公立大学計 | 52 | 19 | 71(5) | 大阪薬科 | 2 | 0 | 2 |
| 静岡 | 1 | 0 | 1 | 《その他学校》 | | | 関西西 | 73 | 35 | 108 | |
| 名古屋 | 1 | 0 | 1 | 防衛医科大学校 | 1 | 0 | 1 | 関西外国語 | 3 | 0 | 3 |
| 三重 | 5 | 1 | 6 | 防衛大学校 | 1 | 1 | 2 | 関西医科 | 0 | 1 | 1(1) |
| 滋賀 | 1 | 1 | 2 | 海外大学校 | 1 | 0 | 1 | 近畿 | 27 | 31 | 58 |
| 京都 | 17 | 14 | 31 | 専門学校 | 1 | 0 | 1 | 摂南 | 2 | 1 | 3 |
| 京都工芸繊維 | 3 | 2 | 5 | 《私立大学》 | | | 関西学院 | 34 | 16 | 50 | |
| 京都教育 | 2 | 0 | 2 | 酪農学園 | 0 | 1 | 1 | 神戸学院 | 3 | 0 | 3 |
| 大阪 | 40 | 22 | 62 | 自治医科 | 0 | 1 | 1(1) | 神戸女学院 | 1 | 0 | 1 |
| 大阪教育 | 13 | 1 | 14 | 北里 | 0 | 2 | 2 | 甲南 | 0 | 1 | 1 |
| 神戸 | 18 | 15 | 33 | 青山学院 | 1 | 0 | 1 | 武庫川女子 | 12 | 2 | 14 |
| 奈良教育 | 5 | 0 | 5 | 慶應義塾 | 4 | 2 | 6 | 畿央 | 9 | 0 | 9 |
| 奈良女子 | 14 | 4 | 18 | 駒澤 | 0 | 2 | 2 | 帝塚山 | 2 | 3 | 5 |
| 和歌山 | 2 | 1 | 3 | 成城 | 1 | 0 | 1 | 天理医療 | 1 | 0 | 1 |
| 広島 | 2 | 0 | 2 | 芝浦工業 | 0 | 1 | 1 | 岡山理科 | 0 | 1 | 1 |
| 鳥取 | 0 | 1 | 1 | 中央 | 3 | 0 | 3 | 立命館アジア太平洋 | 0 | 2 | 2 |
| 徳島 | 2 | 2 | 4(1) | 東洋 | 1 | 0 | 1 | 武庫川女子短 | 1 | 0 | 1 |
| 鳴門教育 | 0 | 1 | 1 | 東京理科 | 0 | 6 | 6 | 私立大学計 | 381 | 318 | 699(3) |
| 九州 | 0 | 1 | 1 | 日本獣医生命科学 | 0 | 1 | 1 | | | | |
| 熊本 | 0 | 1 | 1 | 武蔵野 | 1 | 0 | 1 | | | | |
| 琉球 | 0 | 1 | 1(1) | 明治 | 2 | 1 | 3 | | | | |
| 国立大学計 | 138 | 77 | 215(5) | 早稲田 | 2 | 4 | 6 | | | | |
| | | | | 麻布 | 0 | 1 | 1 | | | | |
| | | | | 南山 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| | | | | 京都外国語 | 0 | 1 | 1 | | | | |
| | | | | 京都産業 | 2 | 2 | 4 | | | | |
| | | | | 京都先端科学 | 1 | 0 | 1 | | | | |
| | | | | 京都女子 | 33 | 0 | 33 | | | | |
| | | | | 京都橘 | 1 | 0 | 1 | | | | |
| | | | | 京都薬科 | 4 | 0 | 4 | | | | |
| | | | | 同志社 | 77 | 102 | 179 | | | | |

※掲載している人数は生徒からの報告を元にしております。

※ () は医学部合格者数です。



部 活 動 報 告

| 部活名など | 大会・コンクール名 | 部 門 | 賞 | クラス | 名 前 | 備 考 |
|--------------------------------|---|------------|----------|--------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|
| 囲碁将棋部 | 第43回全国高等学校総合文化祭囲碁部門奈良県予選 | 男子個人戦 | 準優勝 | F 9 | 吉岡 大輝 | 7月27・28日に佐賀県で行われた全国高等学校総合文化祭に出場 |
| | 第43回全国高等学校囲碁選手権大会奈良県予選 | 男子個人戦 | 準優勝 | F 9 | 吉岡 大輝 | 7月23・24日に東京都で行われた全国囲碁選手権に出場 |
| | 第43回全国高等学校総合文化祭将棋部門奈良県予選 | 男子個人戦 | 優勝 | J 5 | 濱田 健斗 | 7月30・31日に佐賀県で行われた全国高等学校総合文化祭に出場 |
| | 第32回全国高等学校将棋竜王戦奈良県大会 | 男子個人戦 | 優勝 | J 5 | 濱田 健斗 | 8月19・20日に福岡県で行われた全国高等学校将棋竜王戦に出場 |
| 放送局 | 第66回NHK杯全国高校放送コンテスト奈良県大会 | アナウンス | 優良賞 | F 6 | 堤 晴菜 | 7月23～25日に行われた第66回NHK杯全国高校放送コンテストに出場 |
| | | 朗読 | 優秀賞 | J 5 | 日下 和真 | |
| | | | 優良賞 | F 3 | 若林 萌恵 | |
| | | | 優秀賞 | S 1 | 塚本茉奈香 | |
| | ラジオドキュメント | 優秀賞 | | | | |
| 第43回全国高等学校総合文化祭（7月31～8月1日 佐賀県） | 放送部門 朗読 | | | J 5 | 日下 和真 | 文化連盟賞を受賞 |
| 陸上競技部 | 第72回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 県予選会 | 男子800m | 3位 4位 | S10 J 1 | 篠原 直生 天野功太郎 | 6月13日～16日、大阪府で行われた近畿大会に出場 |
| | | 男子200m | 6位 | J 2 | 高橋 祐輝 | |
| | | 男子110mH | 3位 | S 8 | 清水 海音 | |
| | | 男子400mH | 3位 | S 5 | 西岡田航大 | |
| | | 男子5000m | 4位 | S 1 | 谷河 幸祐 | |
| | | 男子走幅跳 | 6位 | S 9 | 大住 圭樹 | |
| | | 男子八種競技 | 6位 | J 4 | 大住 映樹 | |
| | | 女子100m | 4位 | J 9 | 辻内 杏奈 | |
| | | 女子走高跳 | 優勝 | J 9 | 辻内 杏奈 | |
| | | 男子4×100m R | 4位 | J 2 S 8 S 5 F 4 | 高橋 祐輝 安井 涼 西岡田航大 太田 直樹 | 6月13日～16日、大阪府で行われた近畿大会に出場 |
| | | 女子4×100m R | 5位 | J 4 J 9 J 9 S 3 | 近田 侑奈 辻内 杏奈 北岡 幸峰 中川 公里 | |
| | | 男子4×400m R | 4位 | J 4 S10 J 1 S 5 | 野口 尚也 篠原 直生 天野功太郎 西岡田航大 | |
| | | 女子4×400m R | 6位 | S 3 J 9 J 9 J 4 | 中川 公里 沢田 真緒 阪上 萌結 近田 侑奈 | |
| | 第72回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 近畿地区県予選会 | 男子800m | 5位 | S10 | 篠原 直生 | 8月4日～8日、沖縄県で行われた全国大会に出場 |
| 女子走高跳 | | | J 9 | 辻内 杏奈 | 8月4日～8日、沖縄県で行われた全国大会に出場 | |
| バスケットボール部 | 2019年度全国高等学校総合体育大会奈良県予選兼近畿高等学校バスケットボール大会県予選 | 男子団体 | 第3位 | | | 6月21日～23日に大阪府で開かれた近畿大会に出場 |
| | | | 優秀選手賞 | S 7 S 8 | 岸本 航一 松村 峻 | |
| 弓道部 | 平成31年度全国高等学校総合体育大会弓道競技奈良県予選 | 女子団体 | 第3位 | | | 7月20日～22日に和歌山県で行われた近畿大会に出場し、3位入賞 |
| アーチェリー部 | 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会奈良県予選 | 男子個人の部 | 第2位 | S 1 | 岸本 和磨 | 8月7日～10日熊本県八代市で行われた全国大会に出場 |
| | | 女子個人の部 | 第3位 | J 3 | 播 穂香 | |

| 部活名など | 大会・コンクール名 | 部 門 | 賞 | クラス | 名 前 | 備 考 |
|------------|---|---------------|----------|--------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 水泳競技部 | 第73回奈良県高等学校選手権水泳競技大会兼近畿高等学校選手権水泳競技大会奈良県予選大会 | 男子100m自由形 | 第1位 | S 6 | 竹田 瞬希 | 7月22日～24日に神戸市で行われた近畿大会に出場 |
| | | 男子100m背泳ぎ | 第5位 | J 3 | 福島 悠貴 | |
| | | 男子100mバタフライ | 第7位 | S 6 | 上田 誠 | |
| | | 男子200m背泳ぎ | 第6位 | J 3 | 福島 悠貴 | |
| | | 男子200mバタフライ | 第2位 | S 6 | 上田 誠 | |
| | | 男子400m個人メドレー | 第1位 | S 6 | 竹田 瞬希 | |
| | | 男子400mメドレーリレー | 第2位 | S 6 S 6 S 9 J 3 | 竹田 瞬希 上田 誠 浅生 晃聖 福島 悠貴 | |
| | | 男子4×100mリレー | 第4位 | J 3 S 9 S 6 S 6 | 福島 悠貴 浅生 晃聖 上田 誠 竹田 瞬希 | |
| | | 男子4×200mリレー | 第3位 | S 6 S 6 F 3 J 3 | 竹田 瞬希 上田 誠 山本 拓弥 福島 悠貴 | |
| 卓球部 | 全国高等学校総合体育大会兼第73回近畿卓球選手権大会 奈良県予選 | 男子シングルス | 第3位 | S 3 | 森崎 隆慎 | 7月24日～26日奈良で行われた近畿大会に出場 |
| | | | | | | 8月16日～19日鹿児島県で行われた全国大会に出場 |
| 登山・クライミング部 | 第74回国民体育大会スポーツクライミング競技奈良県選手選考会 | ボルダリング競技少年女子 | 第2位 | J 1 | 千村 天優 | 7月20・21日に行われた近畿大会に出場 |
| | | | | | | 10月4日～6日に茨城県で行われる国民体育大会に出場 |
| コーラス部 | 第86回NHK学校音楽コンクール奈良県大会 | 高等学校の部 | 銀賞 | | | |
| | 第30回奈良県合唱コンクール | 高等学校部門Aグループ | 金賞 | | | 9月22日関西合唱コンクール(兵庫県立芸術文化センター) |
| ロボット研究部 | WRO Japan 2019 奈良予選会 | ミドル競技高校生部門 | 優勝 | F 1 | 加藤 吾文 | 全国大会終了済み |
| | | エキスパート競技高校生部門 | 優勝 | S 7 | 井上信多郎 | 全国大会終了済み |
| | 第16回 WRO Japan2019 決勝大会 | エキスパート競技高校生部門 | | S 7 | 井上信多郎 | |
| 小倉百人一首かるた部 | 第39回近畿高等学校総合文化祭奈良県予選会 | 小倉百人一首かるた部門 | 優秀賞 | F 7 | 高田 育実 | 11月23日から24日に京都府で実施される近畿大会に出場 |
| 吹奏楽部 | 第61回奈良県吹奏楽コンクール | 高等学校A | 銀賞 | | | |
| E S S 部 | P D A 関西公立高等学校即興英語ディベート交流大会2019 | | 3位 | J 1 J 1 J 9 | 苧田 颯人 藤岡みなみ 服部奈里美 | |
| 音楽科 | 令和元年度 奈良県独奏・独唱コンクール | ピアノB部門 | 金賞 銀賞 | J 9 F 3 | 川端 由依 谷崎 美幸 | |
| | | 声楽部門 | 金賞 | J 1 | 沢田 彩歌 | |
| | | ピアノA部門 | 銀賞 | F 5 | 西 立月 | |
| | | 声楽部門 | 銀賞 | J 6 F 3 | 沢田 詩織 福本 翼 | |
| 化学部 | 化学グランプリ | ブロック別予選 | 1位 | S10 | 本多 智揮 | 8月19日・20日 東京都で行われた全国大会に出場し、銀賞獲得 |